

『田辺市地域福祉計画』の策定をふりかえって

田辺市地域福祉計画策定委員会副委員長

松 端 克 文

(桃山学院大学社会学部社会福祉学科助教授)

『田辺市地域福祉計画』の理念は、「出発：しあわせづくり・コミュニティづくりに向けてしあわせは 隣近所の 笑い声 」というものです。そこからは、年齢も様々な子どもたちが道端で元気よく遊び、それを近所の大人たちが、世間話に花を咲かせながら、温かく見守っているというような、失われつつある日本の社会の原風景とでもいうべき光景が脳裏に浮かんできます。

少子化と高齢化に加え、人口減少など日本の社会の人口構造が大きく変わりつつあります。核家族化の進展のみならず、単身世帯や独居高齢者世帯、高齢者夫婦世帯が増加していることで家族の「かたち」や「機能」も大きく変わろうとしています。また、家族の内側でも、児童虐待の相談件数は3万件を突破し、高齢者虐待や介護をめぐる殺害や心中事件も多発しています。地域社会でも子どもが巻き込まれる犯罪や高齢者や障害のある人をターゲットにした悪質商法は後を絶たず、過疎化の一層の進展は「限界集落」を多く生み出しています。

こうした時代を象徴的に現すキーワードは「孤立」だといえます。あるいは「信頼の喪失」と言ってもいいかもしれません。

計画の策定に際して、市内12地区で実施された住民懇談会のお手伝いをさせていただきました。平成17年5月に5つの市町村が合併して新・田辺市が誕生しましたが、とにかく各地区を回りながら、その広大な面積と海辺から山間部に至る自然環境の豊かさに驚かされました。そして何よりも、懇談会に参加した住民の皆さんの熱気に圧倒されました。多くの方々が今の社会を不安に思い、憂いてはいましたが、同時に自分たちの力で何とかしていこうという意気込みを感じることができました。

その第一歩が「隣近所」に「笑い声」を取り戻していこうということなのだと思います。私だけがしあわせになろうと利己的に振舞ってもしあわせになれるわけではありません。しあわせは「他者」の存在ぬきには実現しないものだからです。私も、あなたも、共によい状態であってこそ、しあわせだといえます。言い換えれば、「共同性」や「公共性」を取り戻していかなければ、私たちのしあわせは実現しないのです。

そのためには、人と人がつながり、交流でき、気付き合い、学び合い、そして支え合うことができるような機会を創り出す必要があるといえます。計画で掲げる「たなべあんしんネットワーク」の取組はそのようなものだといえます。

人と人との確かな「つながり」を実感できる舞台としての「地域＝コミュニティ」は、住民にとっての「財産」であるともいえます。この計画が、そのようなコミュニティづくりを始める契機になることを願っています。

田辺市地域福祉計画

発行：田辺市

編集：田辺市保健福祉部保健福祉総務課

住所：〒646-0031

田辺市湊1619-8

田辺市民総合センター内

TEL 0739-26-4900

発行年月：平成19年3月

